2014年 7月11日

岡谷市長　今井 竜五 様

公益社団法人　日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部支部長　上浪 寛
同 保存問題委員会委員長　安達 文宏
同長野地域会代表　山口 康憲

武井武雄生家の保存活用に向けた要望書

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
貴市におかれましては日頃より近代化遺産などの文化の継承に理解を示されていることに敬意を表しますとともに、弊会の活動にご協力いただいていることに、心よりお礼申し上げます。

私ども(公社)日本建築家協会では、景観や建築が地域の文化を形成する重要な役割を担っていることを認識し、また、それぞれの建築物は永く使い続けられることによってこそ、文化と歴史が継承されると考え、今まで数多くの建築物に対し保存・活用の提言を行って来ました。

先般、貴市において、武井武雄生家を解体する意向であることを岡谷市広報などにて知りました。 このことは、5月24日、25日に岡谷市を舞台に開催された弊会主催第23回保存問題長野大会のシンポジウムの際も話題になりました。 また、市民による保存運動が広がっていることも周知の通りです。
当建物は、海外にも知られた童画家 武井武雄の生家というだけでなく、江戸時代から約三百年の歳月を刻んだ県内でも数少ない武家屋敷のひとつでもあり、特徴のある構造は地域の民家の変遷を辿る上でも重要な史料となっています。 岡谷市にとって大きな財産であると同時に、地元の住人にとっては子供の頃から見慣れた風景であり誇りとするものです。
隣接する保育園の用地として利用する計画があるようですが、この建物を敷地内に残し活用して行くことこそが、地域の歴史を未来に繋ぐことではないでしょうか。 子供たちにとっても伝統文化の生きた教育となり、将来にわたり愛着と誇りを持って地域に住み続けることに繋がると思われます。

産業の変革が速かった岡谷市では、今までも多くの大切な遺産が経済発展の過程で姿を消してきました。 壊すことはいつでもできますが、これだけの歴史は簡単には作れません。
歴史を物語る建物が、市民に愛されいつまでも記憶に残る存在として、末永く継承されることを心より願っております。 貴市には最大限のご配慮を頂けるものと拝察し、ここに解体計画の再考を要望いたします。

なお、(公社)日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会，同長野地域会は、建物の保存・活用に関し、できる限りの協力をさせて頂く所存です。

敬具

公益社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel.03-3408-8291 Fax.03-3408-8294